

Utility Model Registration No. 3085868

Registered: February 27, 2002

Title:

Package Structure

Abstract:

[Objective]

To package a commodity with a board 14, and further to provide a package structure which can reuse cases 12 and 13, and the board 14.

[Solving Means]

A nasal mucus aspirator 21 is fitted into a fit-in hole 22 of a board 14, and aspiration tubes 26 and 27 are bent to become a U-shape and placed onto the board 14. In such a state, projections 15 of a lower case 12 is passed through through-holes 20 of the board 14 thereby covering an opening 12a of the lower case 12. Next, projections 18 of an upper case 13 are fitted into depressions 16 of the lower case 12 passing through through-holes 19 of the board 14, while the projections 15 of the lower case 12 are fitted into depressions 17 of the upper case 13, and a seal 31 is affixed to an interface portion of both cases 12 and 13. The nasal mucus aspirator 11 is thus packaged with the both upper and lower cases 12 and 13.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3085868号
(U3085868)

(45) 発行日 平成14年5月24日 (2002. 5. 24)

(24) 登録日 平成14年2月27日 (2002. 2. 27)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

B 6 5 D 75/36

B 6 5 D 75/36

G 0 9 F 1/02

G 0 9 F 1/02

E

評価書の請求 有 請求項の数 1 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2001-7260 (U2001-7260)

(22) 出願日 平成13年11月7日 (2001. 11. 7)

(73) 実用新案権者 592186397

柳瀬ワイチ株式会社

大阪市中央区釣鐘町2丁目3番1号

(72) 考案者 柳瀬 秀基

大阪市都島区都島北通り1-23-35 柳瀬

ワイチ株式会社内

(74) 代理人 100090239

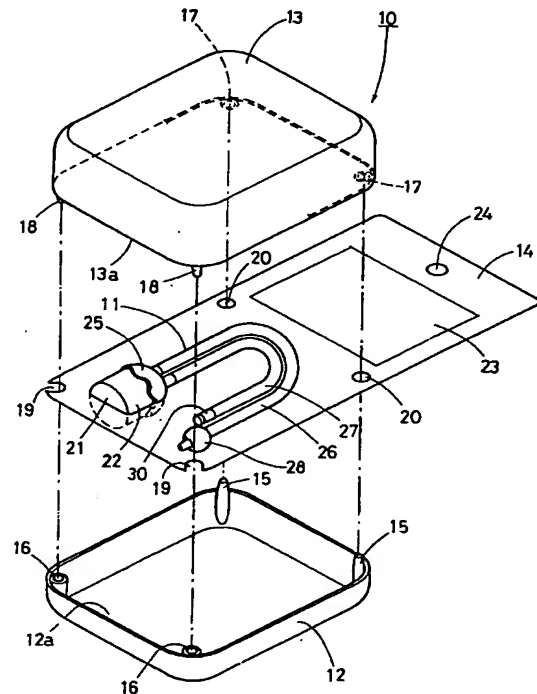
弁理士 三宅 始

(54) 【考案の名称】 パッケージ構造

(57) 【要約】

【課題】 商品を台紙14と共にパッケージし、しかもケース12、13や台紙14を再利用できるパッケージ構造を提供すること。

【解決手段】 鼻汁吸引器21を台紙14の嵌合穴22にはめ込み、吸引管26、27をU字形に湾曲させて台紙14に載せる。そうしておいて、台紙14の貫通穴20に下ケース12の凸部15を貫通させて下ケース12の開口12aに被せる。次に、上ケース13の凸部18を台紙14の貫通穴19を通して下ケース12の凹部16にはめ込むと共に、下ケース12の凸部15を上ケース13の凹部17にはめ込み、両ケース12、13の境界部分にシール31を貼って閉じる。こうして、鼻汁吸引器11を上下両ケース12、13で包装する。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 台紙と透明又は半透明の下ケース及び上ケースを備え、下ケースの角隅部に凸部又は凹部を形成し、上ケースの角隅部に前記下ケースの凸部又は凹部に嵌合する凹部又は凸部を形成し、前記台紙に前記下ケース又は上ケースの凸部が貫通する貫通穴と商品の略下半分が嵌合する商品嵌合穴を形成し、台紙の商品嵌合穴に商品の略下半分を嵌合し、この台紙の貫通穴に前記凸部を貫通させながら凹部に嵌合して前記下ケースと上ケースで台紙を挟み込むと共に両ケースを結合して、両ケースで商品を包装し、台紙の一部を包装空間から露出させ

たことを特徴とするパッケージ構造。

【図面の簡単な説明】

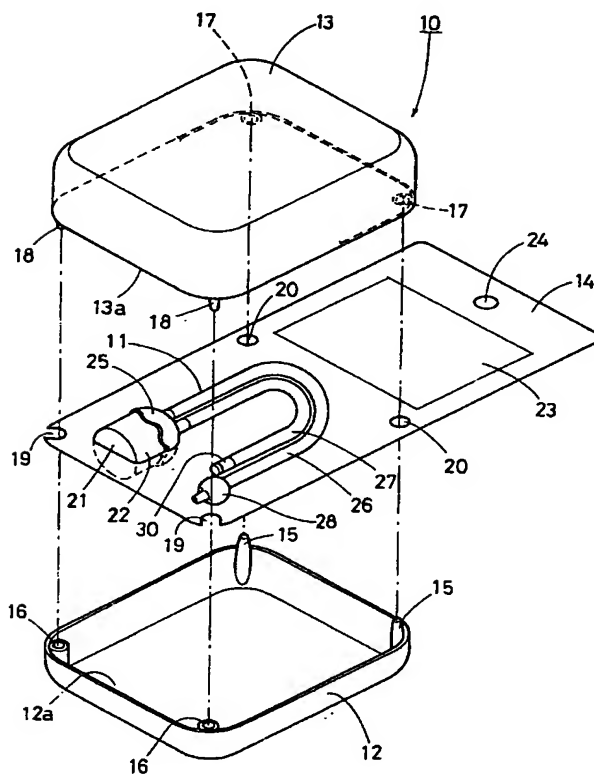
【図1】 本考案の一実施形態に係るパッケージ構造を示す分解斜視図である。

【図2】 同パッケージ構造を示す斜視図である。

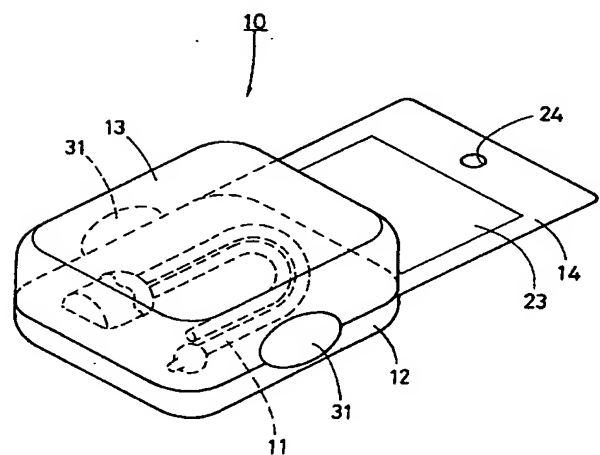
【符号の説明】

10…パッケージ構造、11…鼻汁吸引器、12…下ケース、13…上ケース、14…台紙、15、18…凸部、16、17…凹部、19、20…貫通穴、22…嵌合穴。

【図1】



【図2】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【考案の属する技術分野】

本考案は商品をその使い方の説明文等を印刷した台紙と共に包装するパッケージ構造に関する。

【0002】

【従来技術】

パッケージ方法の一形式として、台紙に載せた商品を透明プラスチックケースで覆い、ケースを台紙に加熱接着したパッケージ構造が知られている。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

上記した従来のパッケージ構造では、プラスチックケースを台紙から剥がして商品を取り出した後、ケースは台紙と共に廃棄処分されるのが一般的であり、商品の保管に利用することはできない。

ところで、幼児や寝たきり病人の鼻汁を吸引する鼻汁吸引器等の衛生器具は使用しないとき埃が付着しないようにケースに入れて保管することが好ましい。また、台紙は商品の使い方を再確認するため保存しておくことが好ましい。

しかし、従来のパッケージ構造ではプラスチックケースを台紙から剥がすとき台紙が破損するので、プラスチックケースと台紙のいずれをも再利用できない。

本考案はかかる点に鑑み、商品を台紙と共にパッケージし、しかもケースや台紙を再利用できるパッケージ構造を提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため、本考案に係るパッケージ構造は、台紙と透明又は半透明の下ケース及び上ケースを備え、下ケースの角隅部に凸部又は凹部を形成し、上ケースの角隅部に前記下ケースの凸部又は凹部に嵌合する凹部又は凸部を形成し、前記台紙に前記下ケース又は上ケースの凸部が貫通する貫通穴と商品の略下半分が嵌合する商品嵌合穴を形成し、台紙の商品嵌合穴に商品の略下半分を嵌合し、この台紙の貫通穴に前記凸部を貫通させながら凹部に嵌合して前記下ケー

スと上ケースで台紙を挟み込むと共に両ケースを結合して、両ケースで商品を包装し、台紙の一部を包装空間から露出させたことを特徴とする。

【0005】

【考案の作用・効果】

本考案によれば、台紙とケースを接着するのではなくて、台紙の貫通穴にケースの凸部を通すことで台紙をケースに取り付けるので、台紙を取り外した後のケースを商品の保管に再利用できる。

また、必要に応じて台紙を再度ケースに取り付けることもでき、商品の使い方を台紙の説明文から再確認できる。

さらに、台紙をケースの包装空間から露出させたので、台紙をフックに掛けて商品をつり下げ展示できる。

【0006】

【考案の実施の形態】

以下に本考案を図面に基づき説明するに、図1及び図2には本考案の一実施形態に係るパッケージ構造10が示されている。このパッケージ構造10は鼻汁吸引器11を包装するためのものであって、下ケース12と上ケース13及び台紙14から成る。

【0007】

下ケース12と上ケース13はともに開口12a、13aが略正方形の箱形を有し、半透明のプラスチックで成形されている。下ケース12の角隅部の二箇所に断面円形の凸部15が形成され、開口12aから外に突出している。また、他の角隅部に断面円形の凹部16が形成されている。

【0008】上ケース13の角隅部には下ケース12の凸部15が着脱可能に嵌合する凹部17と、下ケース12の凹部16に着脱可能に嵌合する凸部18が開口13aから外に突出するように形成されている。

【0009】

台紙14はケース12、13の開口12a、13aより大きな面積の長方形を有し、角隅部の二箇所に上ケース13の凸部18が貫通する貫通穴19と、中間部に下ケース12の凸部15が貫通する貫通穴20が形成されている。四つの貫

通穴19、20で囲まれた部分には鼻汁吸引器11の鼻汁容器21の略下半分が嵌合する嵌合穴22が形成されている。また、台紙14には鼻汁吸引器11の取扱説明文23等が印刷され、端部にフック係合穴24が形成されている。

【0010】

鼻汁吸引器11は鼻汁容器21と、同容器21に被せたキャップ25と、可撓性を有する2本の吸引管26、27から構成される。鼻汁容器21は透明のプラスチック製容器であって、上端部外周に雄ネジが形成され、この雄ねじにキャップ25が着脱可能にはめ込まれている。キャップ25には2本の接続口が形成され、該接続口に吸引管26、27が接続され鼻汁容器21の内部に連通している。鼻汁吸引管26には、鼻孔に宛がうシリコンゴム製の吸引ヘッド28が取り付けられている。吸引管27には、吸引用のマウスピース30が取り付けられている。鼻汁吸引器11は吸引ヘッド28を乳幼児や寝たきり病人等の鼻孔に宛がい、くわえたマウスピース30から吸引して鼻汁を鼻汁容器21内に吸引する。

【00011】

鼻汁吸引器11は、鼻汁容器21を台紙14の嵌合穴22にはめ込み、吸引管26、27をU字形に湾曲させて台紙14に載せる。そうしておいて、台紙14の貫通穴20に下ケース12の凸部15を貫通させて下ケース12の開口12aに被せる。次ぎに、上ケース13の凸部18を台紙14の貫通穴19を通して下ケース12の凹部16にはめ込むと共に、下ケース12の凸部15を上ケース13の凹部17にはめ込み、両ケース12、13の境界部分にシール31を貼って閉じる。こうして、図2に示すように鼻汁吸引器11を上下両ケース12、13で包装する。

【0012】

本実施形態に係るパッケージ構造10によれば、台紙14とケース12、13を接着するのではなくて、台紙14の貫通穴19、20にケース12、13の凸部15、18を通すことで台紙14をケース12、13に取り付けるので、台紙14を取り外した後のケース12、13を鼻汁吸引器11の保管に再利用できる。

また、必要に応じて台紙14を再度ケース12、13に取り付けることもでき

、鼻汁吸引器 1 1 の使い方を台紙 1 4 の説明文 2 3 から再確認できる。

さらに、台紙 1 4 をケース 1 2, 1 3 の包装空間から露出させたので、台紙 1 4 の係合穴 2 4 をフックに掛けてつり下げ展示できる。